

# 現代美術館だより

19

現代美術館は開館4カ月を経過し、予想を上回るペースでお客様まが入館しています。今月はロン・ミュエクの巨大彫刻を抜けて進み、回廊沿いにある2つの作品を紹介しましょう。いずれの作家も日本で発表するのは当館が初となっています。

## 作品介绍⑧ ロケーション(5)

ハンス・オプ・デ・ビーク作

回廊右手にあるのが、ベルギー出身の作家、ハンス・オプ・デ・ビーク(1969年生まれ)による「ロケーション(5)」です。明るいガラスの回廊から入ると、いきなり夜の世界が広がり、初めて入るかたは戸惑うかもしれません。



ロケーション(5)  
Courtesy of Xavier Hufkens, Brussels

ビークは、美術館の中に実物大の「高速道路の夜のカフェ」を再現しました。営業を終え、誰もが帰ってしまった深夜のカフェ。オールデイーズのナンバーだけが鳴り響きます。イスは実際に座ることができ、外を眺めると大きなガラス窓越しにオレンジ色の街灯で照らされた高速道路がどこまでも続く風景が見てとれます。もちろん、これは遠近法を使った「だまし絵」的なもので、実際の長さは11mほどです。

当美術館は作品を体感できるものが多いのですが、この作品は、作品そのものに入り込み、あなたも自分自身が作品中の登場人物のひとりになったかのような体験をすることができま

す。 ※本作品は修理のため公開を見合わせています。完了をホームページなどでお知らせします。

## 作品介绍⑨ オン・クラウズ(エア・ポート・シティ)

トマス・サラセーノ作

館内のもっとも西側、保健所側の展示室に入ると数多くのバルーンでできた作品があります。一見すると巨大怪獣の繭にも見えますが、「オン・クラウズ」、すなわち雲の上の世界を表しています。

本作品は、アルゼンチン出身のトマス・サラセーノ(1973年生まれ)によるものです。大学で建築を専攻したサラセーノは、空気、水、光、熱といった不定形の素材と幾何学的構造を使って形を作り出しています。本作品は雨上



オン・クラウズ  
(エア・ポート・シティ)

がりの水滴でキラキラ輝くクモの巣に触発されて作られました。壁・床・天井から張られたワイヤーで展示室に固定され、宙に浮いた状態で展示されています。観客は、はしごに上ってバルーンの内側から、まるで雲の中にいるような、異次元を漂うかのような感覚を味わうことができます。

大気の流れにも詳しいサラセーノは、空に対するあこがれや、空中に漂っていたいという夢を、作品を通して表現しています。国境のない雲の上で人々が暮らすことを願い、バルーンでできた理想の世界、「エア・ポート・シティ」を実現しようとして模索中なのでしよう。

問い合わせ先

十和田市現代美術館 (☎20-1127)